

四半期報告書

(第211期第3四半期) 自 平成25年10月1日
至 平成25年12月31日

三菱倉庫株式会社

(E04283)

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年2月14日

【四半期会計期間】 第211期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

【会社名】 三菱倉庫株式会社

【英訳名】 Mitsubishi Logistics Corporation

【代表者の役職氏名】 取締役社長 松井明生

【本店の所在の場所】 東京都中央区新川一丁目28番38号

【電話番号】 東京03(6705)6500

【事務連絡者氏名】 経理部経理課長 三浦弘樹

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区新川一丁目28番38号

【電話番号】 東京03(6705)6500

【事務連絡者氏名】 経理部経理課長 三浦弘樹

【縦覧に供する場所】 三菱倉庫株式会社 横浜支店
(横浜市中区太田町四丁目55番地 横浜馬車道ビル)
三菱倉庫株式会社 名古屋支店
(名古屋市中村区名駅三丁目16番22号
名古屋ダイヤビルディング1号館)
三菱倉庫株式会社 大阪支店
(大阪市福島区野田六丁目5番20号
大阪ダイヤビルディング)
三菱倉庫株式会社 神戸支店
(神戸市中央区東川崎町一丁目7番4号
ハーバーランドダイヤニッセイビル)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第210期 第3四半期 連結累計期間	第211期 第3四半期 連結累計期間	第210期
会計期間	自 平成24年 4月1日 至 平成24年 12月31日	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 12月31日	自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日
営業収益 (百万円)	142,706	146,988	192,260
経常利益 (百万円)	11,880	10,694	14,526
四半期(当期)純利益 (百万円)	7,087	7,261	8,591
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	7,737	16,937	18,485
純資産額 (百万円)	217,143	242,618	227,827
総資産額 (百万円)	355,263	405,166	375,180
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	40.44	41.43	49.02
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	60.6	59.3	60.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	13,879	11,781	19,552
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△9,623	△21,697	△16,513
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,304	12,166	1,760
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	34,000	35,062	32,461

回次	第210期 第3四半期 連結会計期間	第211期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年 10月1日 至 平成24年 12月31日	自 平成25年 10月1日 至 平成25年 12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	16.98	18.72

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 営業収益には消費税等は含まない。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、個人消費が増加したほか、設備投資が持ち直し、生産が緩やかに増加するなど、景気は緩やかな回復傾向を辿りました。

こうした経済情勢にあって、当社グループを取り巻く事業環境は、倉庫及び港湾運送等物流業界においては、荷動きが回復傾向にあるものの物流合理化の影響等により、また不動産業界においては、賃貸オフィスビルの需給改善の兆しがあるものの一部に賃料の低下がみられるなど、引き続き厳しい状況のうちに推移しました。

このような状況の下、当社グループは、積極的な営業活動を推進し、物流事業では、医薬品等の配送センター業務の拡大、海外拠点の拡充等に努め、不動産事業では、テナントの確保及び賃料水準の維持・向上に努めました。他方、コスト管理の徹底と業務の効率化を一層推し進め、業績の確保に努めました。

この結果、営業収益は、物流事業で倉庫、陸上運送の両事業において医薬品、非鉄金属等の取扱が堅調に推移したほか、国際運送取扱事業において為替円安の影響もあり収入が増加し、不動産事業で、オフィスビル等の需要減退の影響を受けたものの神戸ハーバーランド商業施設リニューアルの寄与やマンション販売物件の増加により収入が前年同期並みとなったため、全体として前年同期比42億8千2百万円（3.0%）増の1,469億8千8百万円となりました。また営業原価は、コスト管理の徹底及び業務の効率化に努めたものの、物流事業における新規施設稼働に伴う減価償却費等の増加のほか、不動産事業における神戸ハーバーランド商業施設リニューアルに伴う一時費用の計上やマンション販売物件の増加に伴う不動産販売原価の増加により、全体として前年同期比53億2千3百万円（4.2%）増の1,313億3千5百万円となり、販売費及び一般管理費は、前年同期並みの67億6千8百万円となりました。

このため、営業利益は、物流事業で増益となったものの不動産事業で減益となったので、全体として前年同期比10億8千9百万円（10.9%）減の88億8千4百万円となり、経常利益は、同11億8千5百万円（10.0%）減の106億9千4百万円となりました。また、四半期純利益は、保有資産の有効活用による投資有価証券売却益の特別利益への計上等により、前年同期比1億7千3百万円（2.4%）増の72億6千1百万円となりました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。

① 倉庫・港湾運送等の物流事業

倉庫・陸上運送の両事業は、医薬品、非鉄金属等の取扱が堅調に推移したため、営業収益は倉庫事

業で前年同期比2.4%増の280億9千2百万円、陸上運送事業で同4.4%増の318億4千7百万円となりました。また港湾運送事業は、コンテナ貨物の取扱が減少したため、営業収益は前年同期比2.7%減の124億9千2百万円となりましたが、国際運送取扱事業は、為替円安の影響等により、営業収益は同6.0%増の341億2千4百万円となりました。

この結果、物流事業全体の営業収益は、前年同期比42億6千6百万円（3.7%）増の1,204億1千7百万円となりました。また営業費用は、当社及び連結子会社における新規施設（埼玉・三郷2号配送センター、大阪・茨木3号配送センター、富士物流(株)三重物流センター）の稼働に伴い減価償却費等が増加したため、前年同期比39億1千3百万円（3.5%）増の1,154億4千8百万円となりました。このためセグメント利益（営業利益）は、前年同期比3億5千3百万円（7.7%）増の49億6千8百万円となりました。

② 不動産事業

主力の不動産賃貸事業は、神戸ハーバーランド商業施設リニューアルが寄与したもののオフィスビル等の需要減退の影響により、営業収益は前年同期比1.4%減の227億3千2百万円となりました。その他の営業収益は、マンション販売物件の増加等により前年同期比7.0%増の52億1百万円となりました。

この結果、不動産事業全体の営業収益は、前年同期並みの279億3千3百万円となりました。また営業費用は、定率法計算に伴い減価償却費が減少したものの、神戸ハーバーランド商業施設リニューアルに伴う一時費用を計上したほか、マンション販売物件の増加に伴う不動産販売原価の増加もあり、前年同期比14億3千2百万円（7.4%）増の206億8千2百万円となりました。このためセグメント利益（営業利益）は、前年同期比14億1千9百万円（16.4%）減の72億5千万円となりました。

セグメント別営業収益

セグメント	営業収益(百万円)	前年同期比	
	当第3四半期連結累計期間	金額(百万円)	(%)
倉庫・港湾運送等の物流事業			
（倉庫事業）	28,092	649	2.4
（陸上運送事業）	31,847	1,335	4.4
（港湾運送事業）	12,492	△342	△2.7
（国際運送取扱事業）	34,124	1,943	6.0
（その他）	13,860	680	5.2
計	120,417	4,266	3.7
不動産事業			
（不動産賃貸事業）	22,732	△329	△1.4
（その他）	5,201	342	7.0
計	27,933	12	0.0
セグメント間取引消去	△1,362	2	—
合計	146,988	4,282	3.0

(2) 財政状態の分析

① 総資産

当第3四半期連結会計期間の総資産は、当期の設備投資（物流事業における大阪茨木の土地建物購入、不動産事業における神戸ハーバーランド商業施設リニューアル等）に伴い「建物及び構築物」、「土地」等が増加したほか、株式相場回復に伴い「投資有価証券」が増加したため、前期末比299億8千6百万円増の4,051億6千6百万円となりました。

② 負債合計

当第3四半期連結会計期間の負債合計は、新規借入に伴い「短期借入金」が増加したほか、株式相場回復に伴い「繰延税金負債」が増加したため、前期末比151億9千5百万円増の1,625億4千8百万円となりました。

③ 純資産

当第3四半期連結会計期間の純資産は、四半期純利益の計上により「利益剰余金」が増加したほか、株式相場回復に伴い「その他有価証券評価差額金」が増加したため、前期末比147億9千万円増の2,426億1千8百万円となりました。

④ 自己資本比率

この結果、当第3四半期連結会計期間の自己資本比率は、前期末を0.9ポイント下回る59.3%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却による資金留保等により、117億8千1百万円の増加（前年同期は138億7千9百万円の増加）となりました。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出等により、216億9千7百万円の減少（96億2千3百万円の減少）となりました。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加等により、121億6千6百万円の増加（23億4百万円の増加）となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローは、これらに現金及び現金同等物に係る換算差額（3億5千万円の増加）を加えた全体で26億1百万円の増加となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は350億6千2百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、株式会社の支配に関する基本方針を以下の通り定めております。

○会社の支配に関する基本方針

当社グループの主たる事業は、倉庫事業を中核とする物流事業並びにビル賃貸を中心とする不動産事業であります。

物流事業については、倉庫事業を中核として陸上運送・国際運送取扱・港湾運送の各事業を情報通信技術の活用により有機的かつ総合的に運営することを目指し、不動産事業については、所有地の立地に適した活用により、主としてオフィスビル・商業施設の賃貸事業の展開を図っており、これら事業のフェアな遂行を通じて、適正な利潤の確保と安定した成長を図り、株主及び社員に報いるとともに、豊かな社会の実現に貢献していきたいと念願しております。

両事業とも、好立地の土地、建物、設備等を要する性格上、多額の投資を必要としますので、事業の拡大・発展を目指して、資金をはじめとする経営資源の投入は、長期的視野に立ち、継続的、計画的に展開しております。

当社は、当社株式の大量取得を目的とする買付けの意義を一概に否定するものではありませんが、上記に反するような当社の企業価値ひいては株主の共同の利益を損なう買付けは適切でないと考えております。

現在のところ、当社株式を大量に取得しようとする者の存在は認識しておりませんが、当社株式の異動状況を常に注視し、このような考え方に反して当社株式を大量に取得しようとする者が出現した場合には、それが当社の企業価値、株主共同の利益向上に資するものでないときは、適切な対抗措置を検討し、速やかに実施する体制を整えることとしております。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	440,000,000
計	440,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	175,921,478	175,921,478	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 (単元株式数は1,000株)
計	175,921,478	175,921,478	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年12月31日	—	175,921,478	—	22,393	—	19,383

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年9月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区 分	株式数(株)	議決権の数(個)	内 容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 595,000	—	—
	(相互保有株式) 普通株式 525,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 173,836,000	173,836	—
単元未満株式	普通株式 965,478	—	一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	175,921,478	—	—
総株主の議決権	—	173,836	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、相互保有株式1,397株(福井倉庫株式会社保有995株、株式会社草津倉庫保有402株)及び当社保有の自己株式631株が含まれている。

② 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 三菱倉庫株式会社	東京都中央区新川 1丁目28-38	595,000	—	595,000	0.34
(相互保有株式) 福井倉庫株式会社	福井県福井市花堂北 1丁目4-22	277,000	—	277,000	0.16
株式会社草津倉庫	滋賀県草津市大路 1丁目13-25	138,000	—	138,000	0.08
中谷運輸株式会社	大阪府大阪市港区 海岸通1丁目5-22	50,000	—	50,000	0.03
湘南企業株式会社	神奈川県横浜市西区 高島2丁目19-3	30,000	—	30,000	0.02
相互運輸株式会社	福岡県福岡市博多区大 博町6-16	30,000	—	30,000	0.02
計	—	1,120,000	—	1,120,000	0.64

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	29,367	31,142
受取手形及び営業未収金	※2 30,720	※2 31,783
有価証券	4,500	5,600
販売用不動産	6,324	7,173
繰延税金資産	2,112	1,719
その他	4,478	5,070
貸倒引当金	△55	△79
流動資産合計	77,446	82,409
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	104,026	108,460
機械装置及び運搬具（純額）	3,538	3,537
土地	66,158	71,324
建設仮勘定	2,934	5,185
その他（純額）	2,761	2,867
有形固定資産合計	179,418	191,376
無形固定資産		
借地権	7,722	7,722
のれん	2,292	2,166
その他	5,927	6,476
無形固定資産合計	15,942	16,365
投資その他の資産		
投資有価証券	93,760	106,308
長期貸付金	566	609
繰延税金資産	2,785	2,657
その他	5,460	5,623
貸倒引当金	△32	△25
投資損失引当金	△169	△158
投資その他の資産合計	102,371	115,014
固定資産合計	297,733	322,756
資産合計	375,180	405,166

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	※2 20,037	※2 18,278
短期借入金	15,124	29,632
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払法人税等	2,294	1,465
取締役賞与引当金	40	30
その他	11,231	10,870
流動負債合計	48,728	65,277
固定負債		
社債	29,000	24,000
長期借入金	13,882	13,954
長期預り金	23,189	22,692
繰延税金負債	15,768	20,218
退職給付引当金	15,854	15,544
役員退職慰労引当金	221	218
その他	708	643
固定負債合計	98,624	97,270
負債合計	147,352	162,548
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,393	22,393
資本剰余金	19,617	19,617
利益剰余金	151,269	156,426
自己株式	△712	△739
株主資本合計	192,568	197,698
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34,383	42,599
為替換算調整勘定	△1,134	124
その他の包括利益累計額合計	33,248	42,723
少数株主持分	2,010	2,196
純資産合計	227,827	242,618
負債純資産合計	375,180	405,166

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業収益		
倉庫保管料	16,198	16,600
倉庫荷役料	11,244	11,491
陸上運送料	30,511	31,847
港湾荷役料	12,833	12,489
国際運送取扱料	32,180	34,124
不動産賃貸料	23,878	23,995
その他	15,859	16,438
営業収益合計	142,706	146,988
営業原価		
作業運送委託費	59,131	61,737
人件費	25,146	25,601
施設賃借費	5,801	5,937
減価償却費	8,853	9,090
その他	27,079	28,968
営業原価合計	126,012	131,335
営業総利益	16,694	15,653
販売費及び一般管理費	6,720	6,768
営業利益	9,973	8,884
営業外収益		
受取利息	37	24
受取配当金	1,752	1,783
持分法による投資利益	324	237
その他	424	425
営業外収益合計	2,538	2,470
営業外費用		
支払利息	571	573
その他	60	86
営業外費用合計	631	660
経常利益	11,880	10,694
特別利益		
固定資産処分益	78	67
固定資産受贈益	56	25
投資有価証券売却益	—	1,263
投資損失引当金戻入額	—	10
施設解約補償金	37	10
特別利益合計	172	1,378
特別損失		
固定資産処分損	671	599
投資有価証券評価損	322	10
投資損失引当金繰入額	40	—
退職給付費用	67	—
アドバイザー費用	—	157
特別損失合計	1,102	767
税金等調整前四半期純利益	10,949	11,305
法人税等	3,803	3,912
少数株主損益調整前四半期純利益	7,145	7,393
少数株主利益	58	131
四半期純利益	7,087	7,261

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	7,145	7,393
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	679	8,235
為替換算調整勘定	△85	1,086
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	221
その他の包括利益合計	592	9,544
四半期包括利益	7,737	16,937
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,677	16,735
少数株主に係る四半期包括利益	60	201

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	10,949	11,305
減価償却費	9,070	9,267
引当金の増減額 (△は減少)	△69	△299
受取利息及び受取配当金	△1,789	△1,807
支払利息	571	573
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△1,260
投資有価証券評価損益 (△は益)	322	10
売上債権の増減額 (△は増加)	10,167	△752
販売用不動産の増減額 (△は増加)	△1,605	△848
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,214	△1,914
預り金の増減額 (△は減少)	△4,421	1,285
その他	△1,921	△766
小計	18,058	14,792
利息及び配当金の受取額	1,855	1,928
利息の支払額	△665	△672
法人税等の支払額	△5,369	△4,266
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,879	11,781
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△9,716	△23,086
固定資産の売却による収入	135	205
投資有価証券の取得による支出	△583	△413
投資有価証券の売却による収入	3	2,221
子会社出資金の取得による支出	—	△297
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	383	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△7
その他	154	△319
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,623	△21,697
財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の純増減額 (△は減少)	4,646	14,532
配当金の支払額	△2,106	△2,105
その他	△234	△261
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,304	12,166
現金及び現金同等物に係る換算差額	23	350
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	6,584	2,601
現金及び現金同等物の期首残高	27,416	32,461
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 34,000	※1 35,062

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の借入金等に対して次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
夢洲コンテナターミナル(株)	1,325百万円	1,296百万円
名古屋ユナイテッドコンテナ ターミナル(株)	837 "	778 "
(株)ワールド流通センター	482 "	400 "
その他	148 "	98 "
計	2,793百万円	2,573百万円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、当第3四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	59百万円	67百万円
支払手形	32 "	34 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
現金及び預金	27,930百万円	31,142百万円
預入期間が6か月を超える定期預金	△1,430 "	△1,680 "
容易に換金可能で価値変動リスクの 僅少な有価証券	7,500 "	5,600 "
流動資産その他(預け金)	0 "	0 "
現金及び現金同等物	34,000百万円	35,062百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,052	6	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	1,052	6	平成24年9月30日	平成24年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,052	6	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年10月31日 取締役会	普通株式	1,051	6	平成25年9月30日	平成25年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	倉庫・港湾運送 等の物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する営業収益	115,844	26,861	142,706	—	142,706
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	305	1,059	1,364	△1,364	—
計	116,150	27,920	144,071	△1,364	142,706
セグメント利益	4,615	8,670	13,285	△3,312	9,973

(注) 1 セグメント利益の調整額△3,312百万円には、セグメント間取引消去33百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,346百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	倉庫・港湾運送 等の物流事業	不動産事業	計		
営業収益					
外部顧客に対する営業収益	120,094	26,894	146,988	—	146,988
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	322	1,039	1,362	△1,362	—
計	120,417	27,933	148,350	△1,362	146,988
セグメント利益	4,968	7,250	12,219	△3,334	8,884

(注) 1 セグメント利益の調整額△3,334百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,349百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益 40.44円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 (算定上の基礎) 四半期連結損益計算書上の四半期純利益 7,087百万円 普通株式に係る四半期純利益 7,087百万円 普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。 普通株式の期中平均株式数 175,277,637株	1株当たり四半期純利益 41.43円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。 (算定上の基礎) 四半期連結損益計算書上の四半期純利益 7,261百万円 普通株式に係る四半期純利益 7,261百万円 普通株主に帰属しない金額の主な内訳 該当事項はありません。 普通株式の期中平均株式数 175,259,415株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第211期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年10月31日開催の取締役会において、平成25年9月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- ① 配当金の総額 1,051百万円
- ② 1株当たりの金額 6円
- ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成25年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月14日

三菱倉庫株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 牧 野 隆 一 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 長 崎 康 行 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 秋 山 高 広 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱倉庫株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱倉庫株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月14日
【会社名】	三菱倉庫株式会社
【英訳名】	Mitsubishi Logistics Corporation
【代表者の役職氏名】	取締役社長 松井明生
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項なし
【本店の所在の場所】	東京都中央区新川一丁目28番38号
【縦覧に供する場所】	三菱倉庫株式会社 横浜支店 (横浜市中区太田町四丁目55番地 横浜馬車道ビル) 三菱倉庫株式会社 名古屋支店 (名古屋市中村区名駅三丁目16番22号 名古屋ダイヤビルディング1号館) 三菱倉庫株式会社 大阪支店 (大阪市福島区野田六丁目5番20号 大阪ダイヤビルディング) 三菱倉庫株式会社 神戸支店 (神戸市中央区東川崎町一丁目7番4号 ハーバーランドダイヤニッセイビル) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 松井明生は、当社の第211期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

